

文化財石垣保存技術協議会会報

令和3年（2021） 第26号 —令和3年度事業報告—

令和3年度総会の開催について

令和3年度は新型コロナウイルスの影響により総会の招集は行わず、議案への賛否を記入した議決・承認書の提出をもって総会にかえる書面開催と致しました。

基準日 令和3年7月24日（土）

主な議事（1）会則の改正案

（2）令和2年度事業報告、決算報告

（3）令和3年度事業計画、予算案

技能者養成研修（実技専門研修）大津

日 時 令和3年10月31日（日）～11月3日（水・祝）
令和3年11月20日（土）～11月23日（火・祝）

場 所 ヤマハマリーナ琵琶湖（滋賀県大津市）
受講生 技能会員7名（講師5名、事務局1名）
内 容 野面積み石垣の石積み



受講者の声

藤倉 純二（技能会員）

【研修前半】

前回到引き続き今回も大津研修に受講させていただきありがとうございました。また今回の研修に関わっていただいた関係者各位、皆様方にも感謝いたします。

さて、今回の研修を受講した感想ですが、前回に比べて受講生のレベルが少し上がったかなと思いました。それぞれの受講生が各々考えて、石を積んでいく姿を見て、前回よりも質問が少なくなり、スピードも速くなったような気がします。

その一方、講師陣からの指摘にもあったとおり、石を積む、選ぶことに夢中になりすぎて、基本中の基本の裏栗をおろそかにする場面が非常に多くなりました。今一度基本を忠実に守り、堅固な石積みをつくることに集中し、全てにおいてのレベルアップ、スピードアップを目指して、次回の研修に臨みたいと思います。今後、この研修で学んだ技術一つ一つをできれば、文化財石積みのできる現場にて、実際に作業し、修復できればと思います。

【研修後半】

20 日からの研修で気になったことは詰石に関してのことです。みんなそれぞれの感性で詰石を詰めていっていましたが、もう少し統一性があるといいのかな？と思いました。正解、不正解はないのですが、詰石で印象がガラッと変わるので、割石の割合や使うか使わないか、どの程度まで詰石を詰めていくかなど、研修生同士での会話も必要だなと思いました。もちろん講師チームに相談や知恵を借りるなどして、より美しく見える石垣を目指していきたいと思いました。

もし、また次回研修に参加できるのであれば、石垣自体ももちろんのこと、細かいことも含め、チーム一丸相談してより良い石垣を積んでいきたいと思います。

またよろしくお願い致します。今回もありがとうございました。

後継者育成研修 津山

日 時 令和3年12月15日(水)～17日(金)

場 所 岡山県津山市 津山城跡

受講生 技能会員3名(講師1名)

内 容 石垣の積み直し・復旧作業

受講者の声

小野 雄大(技能会員)

今回は初めての文化財城跡での研修でしたが、新設の石積みとの違いを見ることができました。

先人が積んだ石を解体して以前にあった場所に石を戻すという作業が、とても時間と手間がかかるものだとしてより深く認識できたと思います。

今回、詰石を入れさせていただけたのですが、新設はそれほど考えることなく選んでいた詰石が、文化財石積みでは決まったスペースに加工して入れ込む作業が、とても気をつかうものだと感じることができました。頭では分かったつもりでも実際に施工すると、結構気づかなかったことが多いです。

今回凝灰岩竜山石を加工できたのも良かったです。鉄ノミの良さを再認識できたのも良かったです。今度、ノミの焼き入れを自分でもやってみようかと思います。



技能者養成研修（実技専門研修）小豆島

日 時 令和3年12月24日(金)～26日(日)

場 所 香川県小豆島町

対 象 技能会員4名、技術・研究会員5名

内 容 現地調査、実技実習(鍛冶による道具作り)、
石垣カルテ作成実習



小川 龍也(技能会員)

石工が鍛冶の勉強をするということに違和感を抱く人もいるかもしれません。矢穴を彫ったり加工する人と鍛冶作業は分担されていたのではないかと思います。しかしながら実際ノミを使う人にしか分からないこと、細かな形状の工夫、焼き入れの加減などの調整を繰り返しながら、今日残っているノミ石工道具の形に発展してきたことを考えると、やはり石工自身が鍛冶にも精通していたのだと思うと思います。それは昔の職人が、火・水・金など自然から得られた技術を大切に後世に紡いできたということであって、今失われかけているその知識、技術を継承していくことが、現代の職人にとって重要なことだと思っています。

今回の鍛冶研修では、異なる鋼材からノミを整形し焼き入れの加減を工夫して最適な加減を検証するというもので、鋼材の違いによって整形のしやすさが違ったり、焼き入れの加減によって使えたり使えなかったりと、そのわずかな違いを体で経験できたことはとても貴重でした。私は金属の特性、熱処理について多少ですが勉強していますが、実際に体験してみると思ったとおりでできた所、予想を超える反応をみせた部分、まったくうまくいかなかった所などさまざまで、熱処理に対して手応えと難しさの両方を実感することができました。

今後のカリキュラムの充実や個々のレベルアップを図るのに必要だと感じたことは、自分の作ったノミの良し悪しだけでなく研修生同士でノミを交換してお互いで使ってみる。その時の整形のポイント、焼き入れのタイミングなどを話し合い、失敗したノミについて検証する。使えるノミの検証は感想として良かったとしか残らず、何が良かったことにつながったのか？もっと良くなるのではないかとという点で、それ以上のレベルアップにはつながらないように思います。また自分のやり方だけではその違いに気づきにくく視野が狭くなってしまいがちです。ある程度ノミを作り、焼き入れをしてきた人同士なら、お互いのノミを使い、自分の作ったノミとの違いの中から、次のステップのヒントや自分のやり方の確認などが得られるのではないのでしょうか。特につぶれたノミや折れたノミの断面からは多くの重要な情報が得られます。それを検証することで、より良いやり方やポイントが見えてくるような気がします。

最後に、このような鍛冶仕事は日常の仕事には無く、あえて休日を使ったり時間をつくってやらなくてはいいけません。それでも残していかななくてはならない技術だと思っています。ですから文石協のこの研修を通じて鍛冶に興味を持って、その経験を活かしてってくれる仲間が増えていくことが何より良い研修の成果だったと思います。研修に携わって下さった小豆島の方々、会長、副会長、講師の方々、共に学んだ研修生の皆様、ありがとうございました。

技能者養成研修（講義研修・実地研修）鳥取

日 時 令和3年12月18日（土）

※19日は自由参加で鳥取城見学

場 所 鳥取市 鳥取市民交流センター

対 象 技能会員、技術・研究会員、一般会員、賛助会員

人 数 21名（雪のため当日5名欠席）

内 容 文化財石垣に関連する講義、討論など



築澤 和記(技術・研究会員)

私たちに講義していただいている先生方には、知識習得と資質向上に教育していただき大変感謝しています。

協議会発足当時から出来るだけこのような場に参加させていただいておりますが、石垣に関する情報も流れが来るように感じ取られます。特に大きな変化が起きたのは、震災関連による石垣崩壊の事例の報告等から、積み直しに関する方法や裏込め栗石関連、間詰石等、いろいろな報告がされているように思います。

文化庁の指導もあるのか、一気に調査せず、残しながらだんだんと進化しているように、新しい技術を取り込みながら進めているようです。

私は技術研究会員として、その情報を共有するということは、大変大事で有意義だと思っています。学習したことから理解し、そこからどのように発展させていくか、また、石垣関連工事においても一般見学等開催し、社会に対し文化財保護の大事さを世の中に訴える一端を担う仕事に、誇りをもって行うことができる。今回、「石垣修理における施工の実務」の経験を聞きましたが、同じ境遇者として、うなづける部分が多々ありました。やはり皆さん積み直し時の悩みどころは一緒なんだと思いました。

その他石材調達においても、石山を管理している業者の後継者問題について、10 年前から言われていたが、地主高齢による廃山の危機は今も続いていて、いつ事業を辞めてしまうのか、今後、石垣解体積み直しがあった場合、石工の問題よりも石材の調達方法が問題になり、さらに悩むことになるのではないのでしょうか。

石山の後継者問題についても、誰か山を購入管理できる業者等探していかなければ、今後が無くなってしまうことになりそうです。

今回の各地区報告者のレポートを聞かせていただくにあたって、皆様、非常に細かいところまで仕事されているなど感心しました。業者として、「もっと丁寧な仕事」に、打込んでいきたいと改めて痛感しました。

今回の開催地にあたっては、主催者のご尽力によって素晴らしい研修会になりましたことをあらためて感謝いたします。大変ありがとうございました。

■新規加入会員紹介 (令和3年7月24日・令和4年3月6日役員会決議)

会員区分	氏名	所属	会員区分	氏名	所属
技能会員	野田 茂信	(株)Wiz	技能会員	水野 奏志	水野土木
〃	松山 功一	(有)松山石材	技術・研究会員	伏見 千草	(株)Wiz
〃	中谷 徹	庭咲桜	〃	中垣 学	石川県
〃	倉地 城光	庭咲桜	〃	都築 佑紀	(株)庭芳造園
〃	田部 博朗	田部石材(株)	〃	佐々木 亮二	盛岡市
〃	岩崎 翔太	(有)岩崎商事	〃	田中 健一郎	(株)とっぺん
〃	清原 直樹	(有)三山造園	〃	西本 茉由	名古屋市
〃	堤 良輔	(有)鷺之山石材商会	一般会員	平ノ内 まどか	
〃	村尾 達也	(有)鷺之山石材商会	〃	江口 裕子	
〃	梅野 星歩	(株)梅鉢園	〃	田中 訓	幸園

■文化財石垣保存技術協議会会員数

(令和4年3月1日現在)

技能会員	183名
技術・研究会員	120名
一般会員	46名
賛助会員	20法人

評議員 10名

合 計 379名 (法人含む)

発行年月日 令和4(2022)年3月31日

編集・発行 文化財石垣保存技術協議会

事務局住所 〒670-0012 姫路市本町 68-258

日本城郭研究センター内

TEL 079-289-4877 FAX 079-289-4890